

公正な教科書採択をもとめる市民集会

今年度から中学生は学習指導要領改訂に伴う新しい教科書を使用しています。昨年度に各市町の教育委員会が採択を行いました。それまでの育鵬社の歴史教科書についても、中学校の先生からは子どもたちにとって分かりづらい言葉や内容であり、話し合いなどの活動にも使いづらく他社の教科書を求める声が多くありました。新しいものについても他社に比べて事前の調査研究による評価が低かったにもかかわらず、金沢市・小松市・加賀市の教育委員は再び使用することを決めました。全国的には採択の教育委員会議を公開するところが増えており、育鵬社の教科書を使用する市町がたいへん少なくなりました。

今回の集会では、実際に教科書を使用している先生方からお話を聞き、この教科書の問題点やこれからの取り扱いについて、市民と先生とで共に考えていきたいと思えます。

基調報告

- ・教科書採択における現状や問題点について
- ・育鵬社教科書の内容の問題点について

トークセッション

- ・中学校社会科の先生からの報告
- ・参加者からの質問や意見の交流



日時：2022年1月15日（土）13:30～15:10（受付13:00～）

場所：石川県教育会館2階第1会議室 金沢市香林坊1-2-40

小松会場：小松市教育労働会館 小松市本町4-51

加賀会場：加賀市教育会館 加賀市大聖寺本町イ16



*参加についての問い合わせは、いしかわ教育総研 浅村まで

(石川県教職員組合内076-263-2368)

- 主催 いしかわ教育総合研究所
- 後援 こども☆みらい☆教科書@かなざわ、教育を考える会・小松子どもと教育を考える加賀市民の会、石川県労働者福祉協議会、石川県教職員組合、石川県高等学校教職員組合

育鵬社の歴史教科書って？

今年から育鵬社の歴史教科書を使用しているのは、全国581のうち、それまでの21から6地区に激減しました。そのうち金沢・小松・加賀市の3地区が石川県です。使用している割合も、わずか1%になりました。採択の過程が透明化されたことにより、石川県のように推薦された教科書が教育委員によって覆ることがなかったからかと思います。教科書の内容だけでなく、使用数が少ないことによる問題も生徒たちは受けています。実際に使用している中学校の先生の声です。

育鵬社教科書ですが、授業ではワークシートを使い教科書を補っています。ワークシートは社会科の先生で共有しています。ワークシートは帝国など他の教科書を使って作りますが、タブレット用などもありいろいろ大変です。子どもたちが使うワークなどの副教材に対応したものがないのは問題だと思います。(加賀市)



多くの犠牲者を出した太平洋戦争について、日本の対外的な侵略をアメリカやイギリスとの関係から「仕方がなかった」とする論調で、外交問題を解決する手段としての戦争を正当化している。また、犠牲者が増え続ける中で、早期に戦争を終結できた可能性や「大東亜共栄圏」の名のもとに軍事侵略した東南アジア各地での日本軍の行為についての記述が少なく、問題である。日本国憲法の制定の経緯について、GHQからのいわゆる「押しつけ憲法論」の考えが強い。そもそもGHQが草案を示したのは当時の日本政府が考えた改正案が、太平洋戦争を防ぐことのできなかった大日本帝国憲法と変わりなかったためであり、その点についての指摘がない。また、戦後初めて行われた男女普通選挙によって選ばれた帝国議会の議員によって審議され成立したという点についても言及がなく、恣意的な印象操作であると考えられる。(小松市)



天皇についての記述・画像が多く見られることが他の教科書にはない特色といえる。

明治天皇と昭和天皇は索引の紹介ではともに8カ所に記載がある。他の教科書では2～3カ所ということと比べると3倍ほど多い。また、大仏開眼供養の画像や昭和天皇崩御を示す画像の扱いも、他の教科書にない画像を採用している。本文中に記載されている天皇の名前も、他の教科書よりも12名も多かった。日頃の授業では、本文は読まずに調べる資料として扱っている。(金沢市)

